

## 塾生の学力向上を通じての塾生数飛躍的增加を目指して

開倫塾 林 明夫

### 1. はじめに - Return To Basic -

- (1) 塾生数低迷の原因は、塾と塾生・保護者の信頼関係の欠如にある。
- (2) 学習塾に於いて信頼関係を樹立し、塾生数を確保できるのは、唯一「塾生に学力を確実に付け、結果を出し続ける場合だけ」と言える。
- (3) 「結果」とは、

「学校成績」を大幅に向上させること。	}	この3つの場合である。
「偏差値」を大幅に向上させること。		
希望校に合格させること。		
- (4) そこで、全国の学習塾はその生存を懸けて「結果」を出すための創意工夫を行っている。行い続けている。
- (5) はなはだ失礼な言い方であるが、信濃学園ワシントンスクールはその生存を懸けて「結果」を出すための創意工夫を行っているのか。行い続けているのか。是非一度基本に戻って自問自答して頂きたい。「Return To Basic」こそが肝要であると確信する。

一番大切なのは、自分自身の健康(心の健康、身体の健康)  
二番目に大切なのは、家族の健康(心の健康、身体の健康)  
仕事はその次、この順序をお忘れなく  
\* 深夜勤務は絶対にしないこと。

### 2. 学校の定期テスト対策は万全か？

- (1) 間近に迫った1学期中間テスト、7月初めに行われる1学期期末テスト対策のスケジュールは万全に組み上がっているか。
- (2) せめて当塾で指導している科目だけでも100点満点を全塾生に取らせなければ、学習塾として「結果」を出したとは言えない。
- (3) どのようにしたら100点を取らせることができるか。「学習の3段階理論」を参考にして頂きたい。「学習の3段階理論」とは、
  - ( ) 教科書(学校の)の内容は、試験範囲について一語一句確実に「うん、なるほど」「よくわかった」「腑(ふ)に落ちた」という状況にする。つまり「理解」する。  
「理解」するには、おしゃべりや忘れ物、遅刻、欠席、早退などせずによく授業を聴く。辞書や参考書などを用いてよく調べる。どうしてもよくわからなければ「先生に質問する」。
  - ( ) 一度「うん、なるほど」と十分に「理解」した内容は、全て完全に身に付ける。自分のものにする、つまり「定着」させる。「定着」には次の3つの状況が求められる。

一度「うん、なるほど」と「理解」した内容が何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるまでになること。全科目教科書に書いてあることを全て「諳んじて言える」「暗誦できる」ことがこれにあたる。

そのために最も効果的なのが「音読練習」である。10回、20回、何十回、何百回も、よく内容を「理解」した上で教科書を全て覚えるつもりで「音読練習」すること。

次に、一度「うん、なるほど」と十分に「理解」できた内容を、何十回、何百回と全て覚えるつもりで「音読」し、完全に「そらで言える」つまり「暗誦」できたら、その内容を何も見ないで正確に楷書(かいしょ)で書けるまで「書き取り練習」を何十回、何百回もすること。最後に、教科書に出ている問題や学校から配付された「問題集」の問題は、全ての問題についてなぜそのような解答が出るかを十分に「理解」すること。正解に至る筋道が十分「理解」できたら、次に、問題を見た瞬間に正解が出るまでに「計算練習」や「問題練習」をすること。

以上のように、「音読練習」、「書き取り練習」、「問題(計算)練習」の3つの練習を徹底的にやり抜くことで、どんな科目でも定期テストでは「100点満点」が取れる。

(\*「実力テスト」で偏差値60が誰でも取れる。)

(2)現在在籍している全塾生に、以上の方法でこれからの中間・期末試験で100点満点を取らせることを是非実行して頂きたい。

そうは言っても、塾生は自分ではなかなか勉強しないではないか。このような疑問を持ちながら何もしなかったら、学習塾の先生としては職責を果たしたことになる。

ではどうしたらよいか。空いている机と椅子を活用して、正規の授業時間以外にも当塾で教える以外に手はない。「定着のための作業」を徹底的に行わせる以外にない。先生方が当塾にいる間は、ずっと何時間でも勉強させる以外に方法はない。

( )決められた座席に着席。

( )一切おしゃべりはさせないこと(携帯電話は一切禁止)。

( )飲食物は水のみ。ゴミは全て持ち返らせる。

( )先生が指導した内容について、先生が指導する方法で「定着のための作業」を黙々と行う。

(3)内部で体制が整ったら、塾生と保護者を呼んで1時間かけて面談をすることをお勧めしたい。面談で大切なのは、塾生や保護者の状況を先生が十分に聴くこと、つまりHearing(ヒアリング)である。大半の時間(1時間の面談の45分以上を使いHearingを行う。)

次に、「よくわかりました。では、当塾としてはこのお子様の問題を解決し、学校の成績向上、偏差値up、希望校合格のためには、このようなことを提案させていただきます」と具体策についての「提案」つまりProposal(プロポーザル)をすることをお勧めしたい。(10分位)

最後に、先生と塾生・保護者が「では、そうしましょう」と一気に約束をする。つまりClosing(クロージング)をすること。(5分)「とりあえず、いつまでに をしましょうね。」と約束をし、先生は進捗状況について「確認」をし続けること。

(付言)

個別指導塾においては、費用負担が可能な場合には大幅にこれで売り上げを伸ばすことが可能となる。売り上げ減の場合には、是非実行し、対前年比大幅増を目指して頂きたい。

### 3. 夏期講習対策は万全か?

(1)夏期講習会に塾生が来る最も大きな理由は、偏差値を5以上上げてもらいたいからである。

(2)では、今の体制で、夏休みが終わった段階で全塾生が偏差値を5以上upさせることができるか。

(3)夏休みに毎日学習塾に来て、受験生の偏差値を5以上upさせられなかったら、学習塾として結果を出したとは言えない。

(4)では、どうしたらよいか。

夏期講習生の募集を今すぐにでもスタートし、夏期講習がスタートする前にできるだけ全ての科目について基礎的な分野の復習を終えておくこと。

具体的には、今まで学習した範囲だけでよいから、基本的な内容の「理解」と「定着」を徹底的に行うことだけでよい。とりわけ、「音読練習」「書き取り練習」「問題(計算)練習」を何十回、何百回も繰り返させて、全ての知識を身に付けさせること。「練習、練習、また練習」「練習は不可能を可能にする」、この考えを徹底的に塾生に浸透させることをお勧めしたい。

「夏期講習」までの「練習」が、偏差値5 up を確実にする。(夏休みになってからスタートしたのでは、みんなも勉強し始めるのでなかなか偏差値は up しないことを塾生に自覚させること。)

(5)講習会中は、Hearing, Proposal, Closing で約束した塾生については、1日8～12時間学習を実行する。

正規の時間以外も、先生や事務職員が教室にいる時間は、空いている机や椅子を使用させて毎日8～12時間ひたすら学習させることが偏差値5 up のコツである。

ただし、個別指導については、費用の負担ができる範囲で正規授業として行うこと。夏休み中は1日何コマでも指導するのが個別指導の塾である。

1つの教材を何回も、何十回も完璧にやり抜き完全に身に付けることが、偏差値5 up のコツであることもお忘れなく。

次から次へと新しい問題集を与え続けても学習効果は生まれない。できたか、できなかったか。できたら、塾生と先生が喜ぶ。できなかったら、塾生と先生が悲しむ。この繰り返して成績が上がることはない。できなかった問題をよく研究し、できるまでにすること。その問題を見た瞬間に正確に答えられるまでにすること。これには、最低でも3～4回、できれば6回～10回は同じ問題をやる必要がある。

\* 大学入試でも高校入試でも私立中学校入試でも同じ。

夏期講習中には、毎日1時間は「新聞を読んで考える」指導を導入することをお勧めしたい。

( ) 2003年度のOECDのPISA(15歳学力到達度調査)で、日本が1位の座をフィンランドに譲り渡して以来、国民と日本の文部科学省は本気で日本国民の基礎学力の低下を憂慮し、今春全国学力調査を小学校6年生と中学3年生に実施した。

( ) この内容は、OECDのPISA調査の内容に非常に近いもので、自分の頭で考えた上で解かせる問題が大半であった。

今春行われた全国の公立の中高一貫校の入試もPISA調査の影響を受け、自分の頭で考えた上で解かせる問題が大半である。

今後、全ての入学試験は、OECDのPISA調査の影響を受けた全国学力調査のように、自分の頭で考えて解かせる問題が増えると推測される。

( ) 最もよい対策は、毎日家庭に配達される新聞を小学生は1日20分以上、中学生は40分以上、高校生は1時間以上なめるように一面から順に十分に読み込み、世の中でどのようなことが起こっているのかを知り、どうしたらよいかを自分の頭で考え、自分の意見をまとめることであると確信する。

( ) 具体的には、一冊のノートを「夏休み新聞日記」として用意。一面から読み進め、気になる記事の見出しを1日に10コノートに書き抜くこと。そのうちの一つの記事について、「新聞を読んで考えたこと」と題する文章を書くこと。

先生や事務職員は、ノートが一冊終わったらノートを預かり、添削してあげると更に効果的。

夏休み終了後、10月の新聞週間や11月のNIE(Newspaper In Education 新聞を教育に)週間に表彰するイベントを組み(新聞社とも共催で)、年間を通して新聞を読む習慣を育成することも学力向上に役立つ。

\* 9月と12月の「ニュース検定」を全塾生に受験させることも忘れないで頂きたい。

偏差値 65 以上の塾生の偏差値を 70 ~ 75 以上にまで一気に上げるには、「教材を隅から隅まで完全に終了させ、それを完全に定着させること」の他に、「1 ~ 2 学年、2 ~ 3 学年先の先取り学習」を積極的に行うことをお勧めしたい。

( ) 英語なら、実用英語検定をどんどん取らせること。先生さえ見つけられれば、高2 ~ 3 で準1 級まで取得可能である。中学生全員に3 級合格を果たさせ、高校生全員を2 級合格させれば、当塾の評価は飛躍的に高まる。

( ) 英検2 級合格後は、日本の新聞を1 日1 時間以上一面からなめるように読んだのちに、最もやさしい英字新聞である Daily Yomiuri(英文読売)を辞書を使わずに毎日1 時間読み、1 ~ 2 の気になる記事だけ辞書を用いて読むこと。同時併行して、

( ) センター試験の過去問題を全て解き、解説を丁寧に読み、不足する知識を補えば、センター試験でほぼ満点の得点が可能となる。

\* 偏差値 65 以上の塾生に何をどうやらせるかも、今のうちから十分考えて準備しておくことが、   サイクルをまわすのに必要。

#### 4 . 2 学期以降から入試前日までの準備は完璧か？

(1) 夏休みから2 学期に入りどんどん新塾生が入塾して来ることが通常であるが、遅れて入塾した塾生の学力を一気に上昇させ、合格に導くためにはどうするか。

(2)    で「本人の自覚」を促した上で、受験までになすべきことを明示し、約束させ、全員が確認し合うこと、進捗状況を確認し合うことが最も効果的と考える。

#### 5 . 塾生募集の方法を考える

(1) 「校門前配布1 回300 部で1 人入塾」が業界常識。100 名生徒を増やしたければ、100 回校門前配布をすること。

(2) 毎月1 回校舎周辺のみ3000 枚チラシも併用のこと。

(3) ただし、最も大事なものはチラシの内容

「学習イベント」(中間試験対策、期末試験対策、夏期講習前 ウォーム アップ warm up ゼミ etc.)を絶えず組み、「説明会」も確実に実施すること。

説明会の申込みがあった場合には、説明会の前に個別面談をどんどん組み   をまわすこと。

\* 2 学期以降の継続まで の内容にするよう心掛けること。その大前提は十分な。

#### 6 . 欠席者への補講の徹底を

(1) TEL のところに「補講日程ノート」を。職員間での情報の共有化を。

(2) 欠席の連絡があった時に、補講を組み、ノートに記録。全職員が認識し、支援する。

(3) 退塾ゼロは完全補講から。

\* 「講習会参加者へも補講を完璧に」

#### 7 . 授業前15分は全員で塾生を出迎え、保護者への声かけを(車の窓まで行き、必ず会話、コミュニケーションをはかる)

「親との直接コミュニケーション時間の量と生徒数は正比例する」

#### 8 . 校舎meetingの確実な実施を(毎日30分 ~ 1 時間半)

一人ひとりの塾生の名を挙げながら、どうしたら成績が up するか検討。

9. 生徒名簿に毎日[G] [D] マークを

その日に、よくやった生徒には[G]印を。

ダメだった生徒には[D]印を。

↳Daily Telephone Service や出迎えのときの保護者との会話の材料をいつも仕入れておく。

10. おわりに - 来年度はどうするか -

(1) 来年4月以降どのように当塾を運営するかを、今から十分考えておくこと。

(2) 採用計画や研修計画、配置、評価、待遇をどうするかを今から考えておくこと。

(3) 教えるべき内容、教務上のカリキュラム、コースなども今から考えておくこと。

(4) 努力の方向性を一つにして、つまりベクトルを一つにして、全社一丸となって目標に向かうこと。

(5) 経営とは「営みを経て、人々を幸せにすること。幸せになること」を言う。(小林恵智、インタービジョン会長)

頑張りましょう。

(感謝)

- 追記 -

<当面の目標>

目標なくして行動なし。  
目標は高く掲げ、それに向かってつき進もう。

夏期講習生を各校舎で50名ずつ確保する。

そのうち50～60%を2学期に継続させ、全校舎で100名を突破する。

2008年4月で全校舎合計人数を10000名以上とする。

1校舎最低でも100名突破達成を目指す。

ゆくゆくは、1校舎業界目標200名達成を目指す。